「学校給食週間」～食への感謝の気持ちを～

1月23日(月)から27日(金)を立小給食週間としました。

日本の学校給食の歴史は、明治22年に山形県の私立忠愛小学校で始まり、全国に広がっていきました。戦争により中断されましたが、戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に、世界各国から支援の食料が届けられ、学校給食が再開されたといわれています。当時の献立は「おにぎり・塩鮭・漬物」でした。

現在では、給食の意義や役割についての理解や関心を深める週間として、各学校で取り組んでいます。

今年の給食週間は、給食に関わる人への感謝の気持ちを込めた「メッセージプレゼント」や、放送による作文発表を実施しました。

ここで、6年1組　野田　彩夏さんの作文を紹介します。

給食で毎日が豊かに

野田　彩夏

いつも、美味しい給食をつくって下さり、ありがとうございます。栄養バランスがとれても良く、私が六年間健康に生活できたのは、給食のおかげだと考えています。

私は、低学年のころまで苦手な食材が多く、困っていました。なので、給食でも食べられない日があり、申し分けなく思っていました。

しかし、給食の「きなこあげパン」を初めて食べた時、衝撃を受けました。それまで苦手に思っていたきなこが、甘くて美味しいものに思えたからです。これがきっかけで、様々な食材に挑戦してみました。すると、次々と苦手な食材が減っていきました。このことから学べた事があります。それは、「見た目だけで「苦手」だと決めつけず、まずは挑戦してみる事が大切だ」ということです。これは、食材だけでなく、日々の生活でも生かしていきます。また、今ではきなこあげパンはもちろん

多くのメニューがお気に入りです。

そして、もう一つ私が、給食で力を感じている所を紹介します。それは、「変わった食材を食べる事ができる」ということです。給食では、「世界味めぐりの日」などがあり、私が食べた事のないようなメニューがあります。この日は、とてもテンションが上がるし、世界の文化を学ぶきっかけとなります。私は、実際に「世界味めぐりの日」でインドだった時、インドの食文化に興味を持ち、調べてみました。そこで、インドは多くのスパイスを使ったカレーを毎日食べている事を知りました。また、インドのカレーは、ごはんではなくナンと一緒に食べることが多いようです。私は、さらに興味がでてきたのでインドの生活などについても調べるようになり、少しだけ、インドにくわしくなる事ができました。これは、とても勉強になったし、楽しかったです。このように、給食がきっかけで学ぶことができた時、とてもうれしいし、知識が増えて、毎日が楽しくなります。

【給食室前のメッセージ】

家族にも、給食の話をすることがあります。今日、一番美味しかったメニューや、初めて出たメニューなど話はつきません。給食の話がきっかけで家族が明るくなることも多々あります。また、次の日の給食が好きな物だった時は、少し、楽しみになります。このように、給食はまちがいなく、私の毎日をより良くしてくれている日ずです。

本当に毎日給食をつくっていただきありがとうございます。私は、卒業までの日数が少ないですが、これからもよろしくお願いします。楽しみにしていきます。最近寒いので、どうかお体にも気をつけて下さい。

今後も学校給食に携わる人々に感謝の気持ちをもたせ続けたいです。そして、食べ物を粗末にしないことや、食べ物の命をもらって生きているということについても引き続き指導していきます。

お願い

来年度に向けて、各特別教室への空調設備設置工事がはじまっています。中庭側に足場が設置され、校内においての作業も順調に進んでいます。教室内への工事は、休日や放課後が中心となります。何かとご迷惑をおかけしますが、ご理解の程、よろしくお願いします。